

平成 2 3 年 第 1 4 回 教 育 委 員 会 会 議 録

招 集 年 月 日	平成 2 3 年 1 1 月 1 4 日
招 集 場 所	役場 第 2 会 議 室
開 会	1 3 時 0 0 分 委 員 長 宣 告
出 席 委 員	立 脇 教 育 委 員 長 福 田 教 育 委 員 井 上 教 育 委 員 長 崎 教 育 委 員 内 田 教 育 長
欠 席 委 員	
教 育 長 の 報 告	・ 報 告 事 項 な し

議 事 日 程		
議 事 の 経 過		
日 程 そ の 他	発 言 者	発 言 の 要 旨
協議事項		小学校、中学校の現状と課題について
	委 員 長	協議に入りますので小学校から説明をお願いします。
	小 学 校 教 頭	資料に基づき状況説明（学力調査の分析結果について）
	中 学 校 長	資料に基づき状況説明（学力調査の分析結果について）
	委 員 長	先ほどの説明について質疑を受け付ける。 帰ってきた分析結果を回覧して各担当者がコメントし対策をしていく。そのための全体会議は行われているのか。また各分野の担当者が集まって会議は持てているのか。
	小 学 校 教 頭	そこまでの会議は持てていないのが現状である。
	委 員 長	各分野ごとの会議が持てていないことは、結果分析に基づいた教科指導ができていないのではと疑念を

	抱く。
中学校長	今年度は鈴木教授の授業デザイン研修に、この結果資料を活用することができた。この研修の際に苦手教科の改善の取り組みなど話し合うことができた。
教育長	小学校について、触れられませんでした。習熟度別、TTなど実施している。ただ、結果はすぐには出てこないもの。学年によっても差はある。先ほどの回覧だけではなく、個々の対応についても行っていると認識している。
委員	結果分析が返ってきて早いうちに活用をして、授業改善に努めてもらいたい。小学校については、学習支援ボランティアの活用も積極的に行ってほしい。
小学校教頭	小学校においても、学習支援ボランティアの活用したいと声が出ている。お願いしたい。
教育長	学力調査の結果を受けて、日南町の子どもたちは、家庭学習の時間が圧倒的に少ない。その代わり、テレビやゲームの時間は圧倒的に多い。この背景には通学がバスであることもあり、帰宅時間の選択ができないことも原因の一つになっている。放課後の有効的な時間活用を考えなければ、学力を充実させていくことができない。放課後に勉強できる環境を作ることが重要になる。学校として、学習時間が少ないという分析結果、放課後学習していく取り組みをどう思っているのか。
中学校長	パワーアップタイムを活用した学習時間確保を引き続き行っていこうと思う。長期休業中の補習などと組んでいかなければならない。個別で対応できているところはあるが、全体として取り組みはできていない。組織的に時間をどう活用していくのか取り組めていないのが現状。
小学校教頭	中高学年について、1学期後半以降放課後が大変忙しい状況になる。低学年について、2学期以降水曜日のみ放課後に全体で補充の学習を行っている。ただ、毎日低学年の児童を残して学習をしていくことが良いのか検討が必要である。放課後について、決まった時間として活用ができない現状がある。やり方の工夫と時間の有効的な活用について検討しなければならない。バス通学ということで、負担、制約された時間があることで難しさを感じている。
中学校長	限られた時間の中で、どのように学習をしていくのか指導をしているが、家庭学習に結びつかない。家庭に帰ってから時間はあるはずだが、取り組まないのが現状で中学校においていつも議論している。他

	校と比較した時に家庭時間の差が点数として出てきている。
委員	何回か授業を見てきて、分りやすい授業の先生と分りにくい授業の先生がいるが、分りにくい授業の先生について個別指導はしないのか。
中学校長	もちろん行っている。
委員	改善が見れないが。
中学校長	個別に呼び出してはいるが、成果に結びついていないのが現状。
教育長	授業デザイン等の研修を行った結果、全体的に指導力は伸びていると思う。ただ、すべてがそうではないと思う。
委員	確かに、全体的には伸びていると思う。ただ、改善していない部分の穴埋めはしていかないといけない。基になる授業に指導力不足により、子どもたちの理解度が低い時にはそこで躓いてしまう。躓いたまま反復練習はできない。
委員	各クラスでの目標を見ると学習に関することが多かった。子どもたちの意識の中に勉強ということが少なからず根付いていると感じた。
中学校長	他校に比べ、生徒は真剣に授業を受けている。ただ、教科ごとの点数の出方が気になっている。人間的な行動は定着で来ているが、学力的な部分をどう定着させるか課題である。
教育長	人間的な行動は確かにできていると思う。また、学習に対する意欲も高くなっていると思う。意欲をどう結び付けていくのか、小中の教員の解明していく点だと思う。その中で中1ギャップは解消できていると思う。ただ、小3、小4の時に学習が身につけていないところを感じられる。そこをどう補っていくのが重要。
中学校長	中1ギャップについて、好評だったのが春休みの課題である。県下の教員で関心をもたれた。春休みの時間を活用したことで学習面の接続、ふれあい教室、小中交流事業で顔を合わせていたことで中1ギャップは感じなかった。
教育長	小3、小4、中2時点での学力低下をどう改善していくのか問題。生徒自ら考えることを進める必要がある。

中学校長	今足りないのは、参考書をみて理解することができていない。
委員	中学については、通年のテストの結果を表またはグラフ化はしないのか。
中学校長	今はどの学校においてもしていない。テストの難度が違ってくるので比較することが困難である。ただし、個別のテストごとのグラフは作っており、年間通したものは無い。
委員	点数にとられることは無いと思う。学校としては学力だけで人間を図ることは慎んでいかなければならない。偏った考え方ではなく、学校教育の1つに学力があるという考え方でなければならない。
小学校教頭	先ほどもあったが、中学年での点数の落ち込みのことだが、以前は生活体験と結びつけながら学習をすることができていたが、現在はなかなか生活体験と結び付けて学習することができなくなっている。今の子供たちの中には買物を自分でしない、お金を払ったことのない子供がいる。このあたりが抽象的な学習に移るあたりで伸び悩む原因になっている。
中学校長	今年度キャリア教育を進める中で、普段の学習の中でしていることが結びついて、改めて普段の授業の大切さを生徒たちは再認識していた。かつては進学をゴール地点においていたが、現在は将来を見据えて、今の勉強はこういうところに役立つということを目標に実施している。
教育長	キャリア教育について保護者の反応はどうか？
中学校長	把握できていない。
委員	数名の保護者の意見だが、もう少し早い時期からキャリア教育を取り組んではどうか、という意見があった。
中学校長	早いうちに行うというのはどういうことか。
委員	3年の時期は受験もあるためだと思う。2年の段階から取り組むことで、進学するための高校選びの選択肢にもなる。
中学校長	私自身は高校選びのためにキャリア教育を進めてはいない。生き方についてなぜ勉強が必要なのかを目的に実施している。2年生は精神的な発達が未熟である。考える能力ということになると3年生にならないと、キャリア教育はできない。高校になればさらに、日南町のことを更に考えれると思う。
教育長	小学校からみたキャリア教育についてどう考えているのか。

小学校教頭	私的な意見だが、職業意識をもつことは重要である。小学校では、キャリア教育の基盤となる人間形成について取り組むことが小学校では必要だと思う。あとはふるさと教育の充実だと思う。
委員	資料の中で、小中共通の項目について見たが、将来の夢について小中共に高い水準値になっている。基本的に田舎は将来の夢について低水準であるが、高いという結果についてもっと教育に生かすことができれば、勉強も良い結果につながると思う。
委員長	高い意識を保つために、教育環境の整備も必要ではないかと思う。
委員	小学校の学力調査について、3年から4年になったところで極端に成績が落ちているが、このあたりの分析はどう考えているのか。
小学校教頭	今年4年生について習熟度別を採用した背景には、学力の落ち込んでいる児童を何とかするためである。計算力、学習の定着に弱さがあるため、補うためである。
教育長	4年生の中には、平均点を下げる児童がいるということか？または、全体的に落ちるということか？
小学校教頭	全体的にとということです。
教育長	例えば3学期に集中的に学力を補う授業、補習は可能か？
小学校教頭	3学期は時間的なゆとりがあるので、取り組むことが可能。
委員長	躓きの時期をもっとこだわって、補充すべきではないか。基礎学力についてはこだわるべきである。
小学校教頭	放課後の活用について、もう少し学習に時間を割くことができればと考えている。ただ、バス通学の関係で、陸上の練習などについてもそうだが、余裕が無いのが現状である。付けるべき力をつけることは当然のことで、各種行事とのバランスを取っていくことが重要である。
教育長	時間を有効的に活用することは重要。ただ、学力面の躓きを解消することの方が最重要である。
委員	私も躓きを解消することは重要だと思う。ただ、小学校の時には体力と読書が重要であると思う。読書の充実は、学力を成長させることになる。
小学校教頭	3、4年の算数の躓きについて、計算力と読解力が重要になってくる。そこで躓いてしまっている。
委員	今の児童は、小さい頃の実経験が圧倒的に少ないと思う。
教育長	通学バスのため、今話をされたことについてフォローできていない。

委員	躓きについては、先生が何としても対応すべきではないか。
教育長	昨年度のボランティアの声からも、3年4年の躓きがそのままになっているとの声を聞いている。特に今の中2にその傾向がみられる。それぞれの先生がしっかりチェックすべきではないか。基礎的な部分での躓きを取ることが最重要と考える。
小学校教頭	担任も実態についてつかんではいるが、個別で対応するのに力がそそぎきれていない。
教育長	そこの補充にボランティアは活用できないか。
小学校教頭	ボランティアの検討は進めていきたい。
委員長	予定していた時間が来たので、後日改めてこの話は進めたい。以上で第14回教育委員会を閉じる。